

「進路を考える会」議事録／⑦栄養・看護系

7階教室

Aさん：横浜市立大学 医学部 看護学科（高校：コーラス・ラバーズ）

Bさん：順天堂大学 医療看護学部 看護科（高校：剣道部、ホルスタ）

Cさん：お茶の水女子大学 生活科学部 食物栄養学科 2年

1. 進路を決定した時期と、その大学を選んだ理由

Aさん：高3、6月に決めた。

小さいころから医療系に就きたいと思っていた。

高2のカレッジセミナーで県立保健福祉大学に行った時に看護が自分に合っていると思って、横市とどちらがいいか迷った。

高3、6月にテーマ研究で横市の神奈総の卒業生の話を聞いて、横市に決めた。

指定校推薦で進んだと聞き、経済的にも国公立志望となった。

付属病院が2つあり、一つは救急病院で地域の中で、重要な役割を担っている。

Bさん：高3で助産師になりたいと思った。

看護師の母親の影響で、中学の頃から看護の道に進もうと思っていた。

4年間で助産師の資格が取れるのが決め手、8月に志望校を決定。

卒業した後に助産師の専門学校もあるが、1年間でプラス100万円位かかる。

北里大、順天堂、杏林大の3つを考えた。

選んだ理由・大学の雰囲気が良い（先生が親身になって話を聞いてくれた）

・提携している病院が6コ（普通1～2コ）

就職を考えたら、大学病院へすすむ際に6コのうち自分の行きたい所へ行けると思ったから。

Cさん：3年に上がる前に、理系で家から通える国公立を志望。

最初は東大を目指す（やりたいことが見つかっていなかったから、東大は、1～2年次は皆同じ授業なので…）

高3から、化学や生物が好きで、その中で食品に興味を持ち、食べ物を化学するというのは、面白いと思った。

お茶の水は栄養といいながらも研究向きの大学だから。

2. 入試方式

Aさん：指定校推薦で書類を出して面接。

1～2年は推薦ではなく一般で受験するつもりだったが、母の助言がきっかけで一般以外の入試方法も考えた。(合格するチャンスを増やしたい)

面接の内容は、お話をするような感じ。

小さい時から病院に通っていて、精神的にも支えてくれた話をした(患者だけではなく家族も)

面接は和やか、リラックスできて良かった。

Bさん：一般入試、一次筆記、二次面接

センター利用、一次センター試験 二次小論文

併願校の基準は4年間で助産師の資格が取れるか。

面接は人間性を問われる内容。受験が終わったら何がしたい？高校では何を？など。

和やかな面接。

Cさん：一般前期で合格。

慶應大薬学部、明治大農学部も受ける。違う分野に思われるかもしれないが、食品を化学するという点で同じで、やりたいことを基準にした。

合格するチャンスを増やす意味でAOを受けた。

AOは2日間の日程。1日目に講義を受けて、2日目に小論文とグループディスカッション。

グループディスカッションで友達が出来て、一般入試を頑張ろうと思える仲間ができた。

3. 本格的に受験勉強を始めた時期／4. 勉強方法／5. おすすめの参考書

Aさん：高3、5月 スポ大前から、塾(個別)週2日

教科は、数学と化学。好きではあったが苦手だったので。

いろいろな参考書ではなくて、参考書は一つの教材を1、2周とぐるぐる使うと良い。

学校で買った「4STEP」(数学)、「リードα」

「理解しやすい化学・生物」絵も入っていて分かりやすい。

化学、生物は、写真や図をイメージ出来ることが大切。

模擬試験はあまり受けてはいない、8月センター模試は受けた。

看護系の模試も1回だけ(小論文対策)

「小論文・面接の時事ネタ本」看護・医療介護編

Bさん：2年次11月そろそろ勉強しようと塾選び、12月から始めた。

河合塾マナビス個別(映像授業)いつ行っても良い。

部活引退後、週5位。家で勉強出来なかったので、学校帰りに塾に行った。

6月以降本格的に。

8月映像授業だけでなく、対面式の授業を受けたくて夏期講習に行ったりした。

「重要問題集」(化学)

記述問題がたくさん載っている。

「船口のゼロから読み解く現代文」

現代文が苦手で感覚やフィーリングでは解けなかったもので、これは、初歩的なことから書いてあり、おすすめ。

同じ参考書を何度もするのが一番身に付きやすい。

勉強方法として、同じ受験科目を受ける友人を見つけて、お互い問題を出し合うと良い。

理解していないと問題が作れないから。

月1~2回東進、河合の模試を受けていた。

たくさん受けた方が良い。成績が上がるとモチベーションが上がる。

Cさん：1~2年生頃から意識していた。模試は1年生から受けていた。

3年4月頃から勉強の時間をとるようにした。

受験スタディサプリは家で出来て良かった。

安いし、予備校の先生の授業で、受験を意識した内容なので。

AOが不合格であせり、10~11月から本格的に勉強した。

参考書は出来なかったものを何度もする、学校の勉強も大切。

「重要問題集」(化学)

「1対1対応の演習」(数学)

受験サプリ

6. 部活、委員会、行事との両立

Aさん：3年生春、コーラス部を引退したけれど有志団体に活動。

一般受験の人も多いから、自分もやらなきゃとは思った。周りの環境も大きい。

塾にも行っていたので、勉強をしなくてはならない時間はあった。

3年次で行事に参加しても、切り替えさえ出来れば良いと思う。

Bさん：時間管理の出来る人が両立出来ていた。

部活が終わってもすぐに帰らなかったり、勉強しようと思ってもなかなか出来なかつたりした。

Cさん：モチベーションの問題、翔鷗祭もやっていた。

11月には切り替えができた。

<先生から>

本人たちは謙遜して両立は出来なかったと言うが、当然していない訳ではない。

受験を言い訳にサボったりしていないし、しっかり活躍してくれて、一方で結果もこうして残しているから、両立はしていたのでしょう。

7. 受験の感想

Aさん：自分は受験生らしくなかった。一般でも推薦でもたくさん悩む一年。

志望理由書を書くにあたり、自分の夢、人生とか、今まで考えていたことを整理する一年だった。次の進路に行くにあたり、どういうつもりで勉強するのか感じることができた。

一つ芯をもって、絶対にこれだけは叶えたいと思う目標に向かって行った。

あっという間だった。

Bさん：長期休みが受験には大切。

1 1月がモチベーション下がる時期、なぜなら成績が上がってA判定だったりすると勉強しなくなる。それが1月下旬の焦りに繋がる。継続的に勉強するのが大切！周りの環境も大事。

勉強時間を競い合う！モチベーションをあげるためには、勉強管理アプリが便利。←他の人の頑張りが見える。モチベーションをどれだけ上げられるか、上げたモチベーションをどれだけ持ち続けられるかが大切。それでも、今日は休もうという日も大切。切り替えが大切。

授業は大事だった。なんとなく授業を受けて、受験勉強を始めるより、ちゃんと聞いて、そしてしっかり理解するために受験勉強をする方が効率がいい。

Cさん：受験は自分を知るいい機会だった。

直前の模試の判定は良くなかった…Dとかも。でも、最後まであきらめないで頑張れば、結果は付いてくる。

受験をするにあたって進路を考えなければならないので、自分を見つめ直すいいきっかけになった。

<先生から>

- ・行事をしっかりやっていた。いいリフレッシュになったのではないかな。
- ・授業中に熱心に受けているのが先生側から見てわかる。3人ともそうだった。

8. 大学の授業内容、学校生活全般の感想、入学前と印象の違い

Aさん：まだ看護の授業は週2くらい（医学部のキャンパスにて）。共通教養科目がほとんど。

入学する前に大学生は「人生の夏休み」と言われ、サークルに入ろうかと思っていたが毎日忙しい。授業とバイトで精いっぱい。

神奈総生の英語はレベルが高い。

勉強したかったことで、授業は楽しい。

横市は生徒数が少ない。生徒の人数の割に先生が多い。先生と生徒の距離が近い。こじんまり

としていて、自分には合っている。

学校の周りには何もないが、駅に近い！

実習が9月と2月。2週間ある。

入るときは私立に比べれば安い（横浜市出身者は入学金半額）が入ってから、結構かかる。

教科書、実習服、血圧計、体温計、聴診器（5万円くらい）など自費で購入。

神奈川の助成金は多くの学生が応募していた。→卒業後何年か神奈川で働く必要があるが調べると奨学金はたくさんある、給付金も！

Bさん：生物が週3あり、自分は化学で受験だったから、入ってから生物のテスト勉強が大変。

生物受験がいいかも。

看護受験は、化学か生物か数学かが多いけど、入ってから数学は一切ない。

神奈総の英語のレベルは高い、すごい！

授業はほぼ必修だから、一日中同じ教室にいることも多い。知り合いが増える。

6月解剖実習、11月1週間病院実習がある。

2年生は夏休みに実習と2月。3年生後期から4年生まではずっと実習、座学がない。

実習はどこに行くか分からない。遠いとウィークリーマンションを借りることもある、覚悟しておいたほうがいい。寮があるところもある。

2年次から毎授業で課題が出るから大変になる。

部活、バイト、学校生活と休みがない。

部活で上の学年とのコンタクトは大切。過去問をもらえたりと助かる。

Cさん：今2年生で調理実習、調理化学、栄養教育…など専門の勉強。

1年生では専門がほとんどなかった。もともと食品化学がやりたくて入ったが、栄養も勉強したら意外に楽しいと分かった。

勉強したら、なんでも楽しいのではないか。

ひと学年500人くらい。先生との距離が近い。

レベルが高くまじめ→意識が高まる。

小さい学校だからこそ、外との関わりも大事。

お茶大だけで生活していると視野が狭くなるから、インカレサークルに入った。

バイトもして色々な人と関わるようにしている。

東京へ行くことでも刺激がある。視野が広がる。

9. 現役生に伝えたいこと

Aさん：やりたい事をやってください。興味のあることには手を伸ばして欲しい。

親とオープンキャンパスには行かなかった。

でも悩んでいる時は、さり気なく救いの手を差し伸べてくれた、干渉しすぎなかったのが良か

ったと思う。

何も話さないのではなくて将来何がしたいのか？とか改めて家族で話す機会を持つ。

人と話すことで自分自身が決心する。

Bさん：12月にどれだけできるかが大事。継続してがんばって欲しい。国家試験の合格率が高い。浦安にある。

Cさん：大学に行くことを真剣に考える。ちゃんと決断する。

周りに流されずに自分一人で選んだ。母親は放任主義だった。でも自分の好きなことをやりなさい、と言ってくれた。

茗荷谷（みょうがだに）にある。池袋の近く。

【 質疑応答 】

● 課題はどういうのがあるのか？

Bさん：生物や看護系のレポート、このページをまとめるとか、今の授業で習ったことをまとめて出ささい、など。

Cさん：調理化学的に分析する（塩分濃度を調べたり）

● 看護師の方は、仕事は大変だが収入的には良いというのは聞くが、栄養系に行った場合、将来はどういう仕事になるのか？

Cさん：お茶の水大学は、あまり病院には就職しない。

院には半分いく。主に食品メーカーとか、研究開発とか。

食品メーカーにいくなら院にいかないといけないという話も聞く。

先生：一般的には病院とか栄養士さんになる人が多い。というか、そこを目指す人が多い。